

経営比較分析表（平成29年度決算）

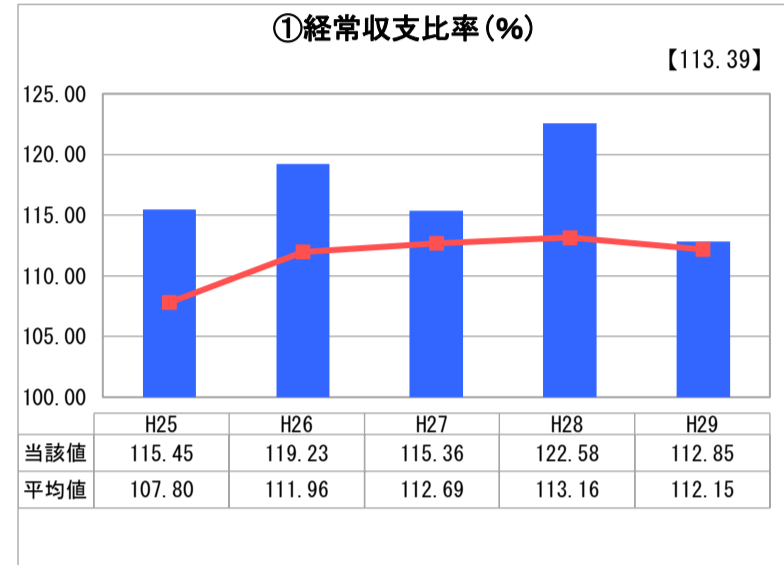
埼玉県 白岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	75.39	99.74	2,732	

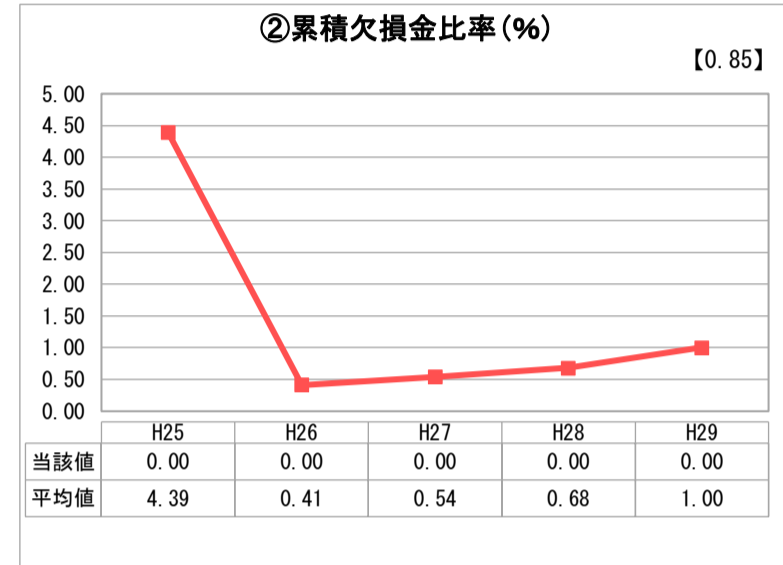
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
52,539	24.92	2,108.31
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
52,372	24.92	2,101.61

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

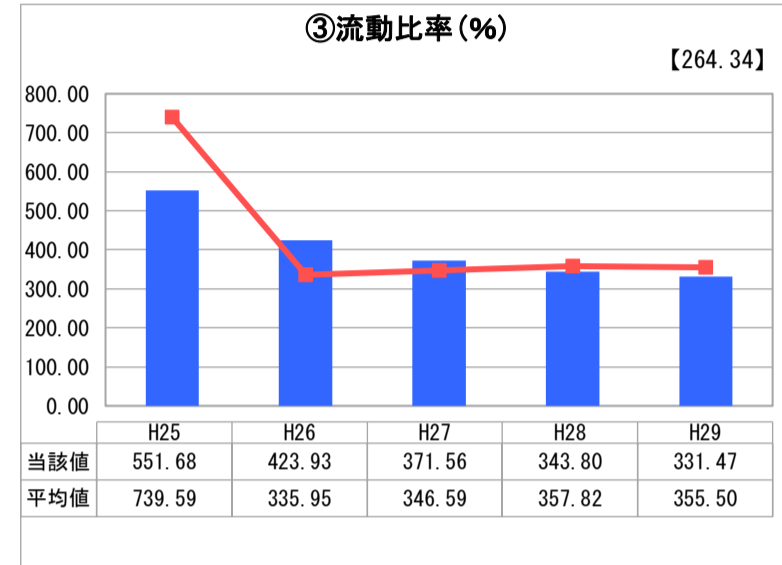
1. 経営の健全性・効率性



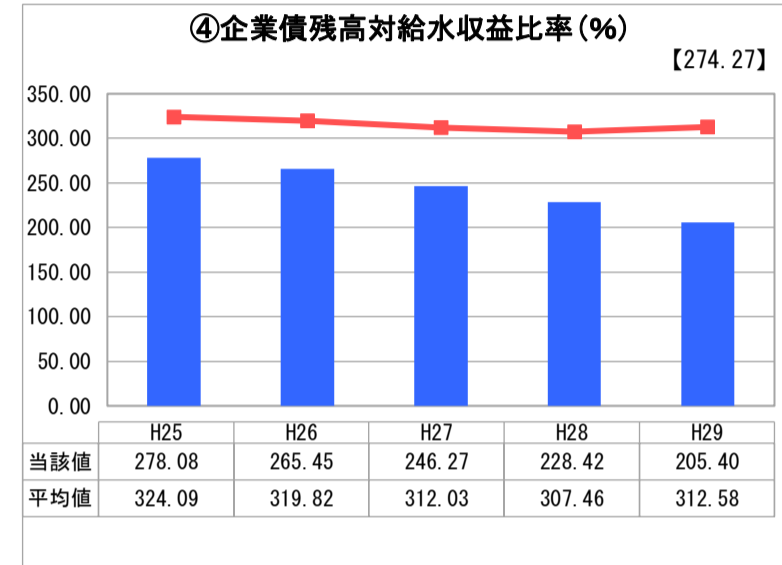
「経常損益」



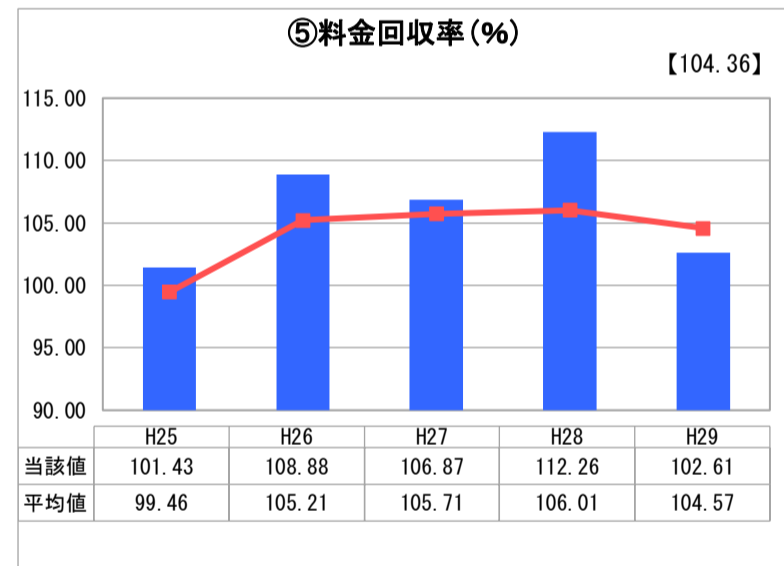
「累積欠損」



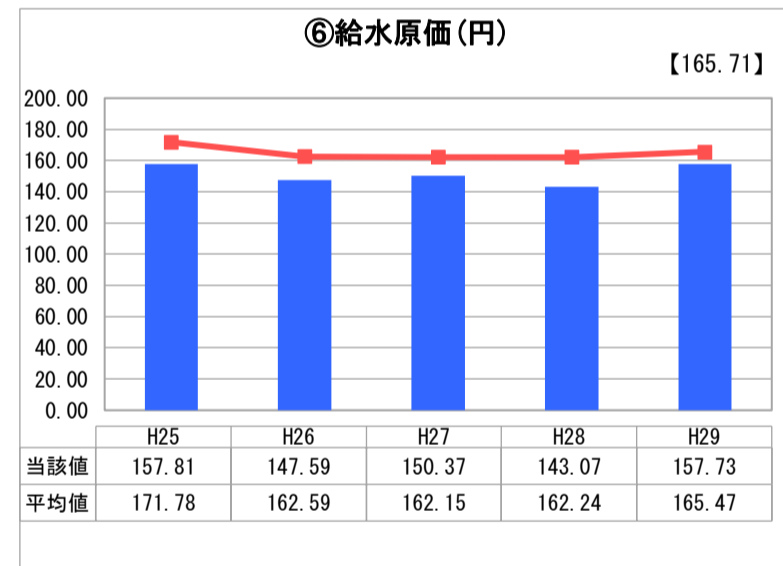
「支払能力」



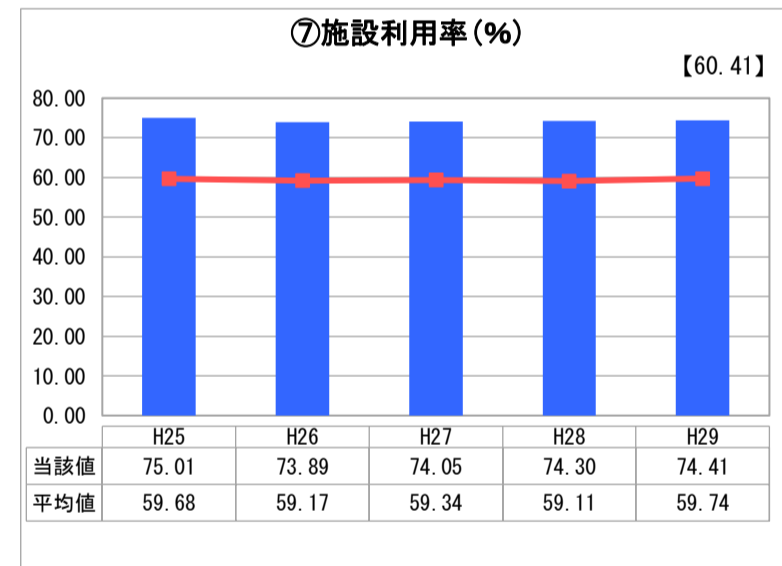
「債務残高」



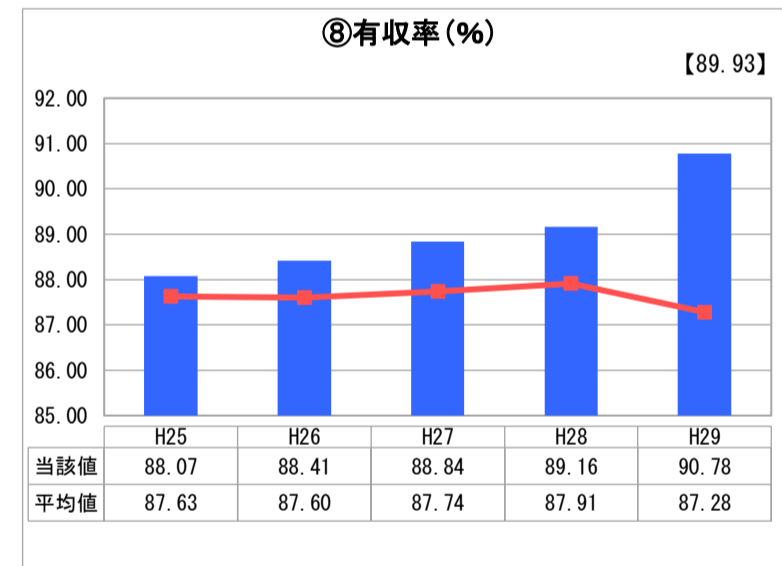
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

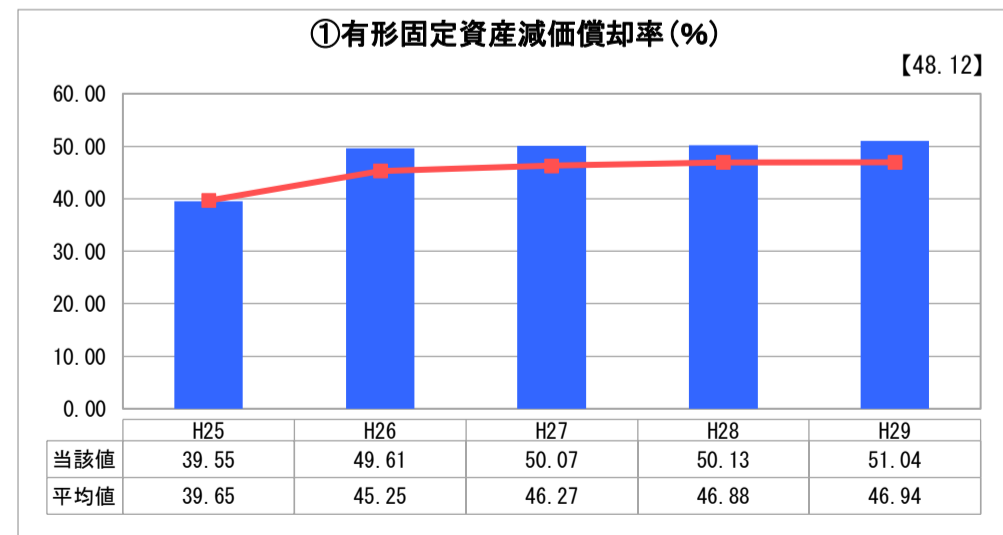


「施設の効率性」

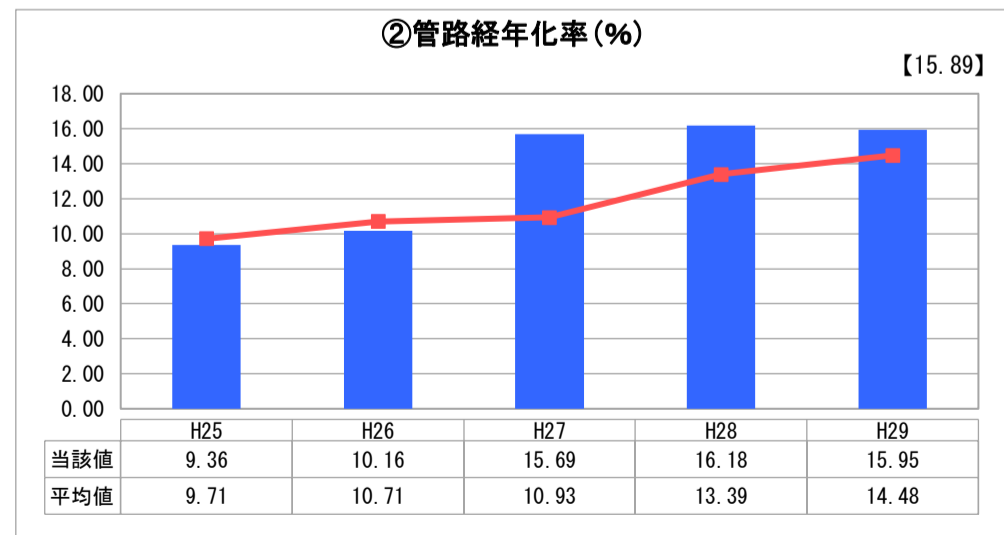


「供給した配水量の効率性」

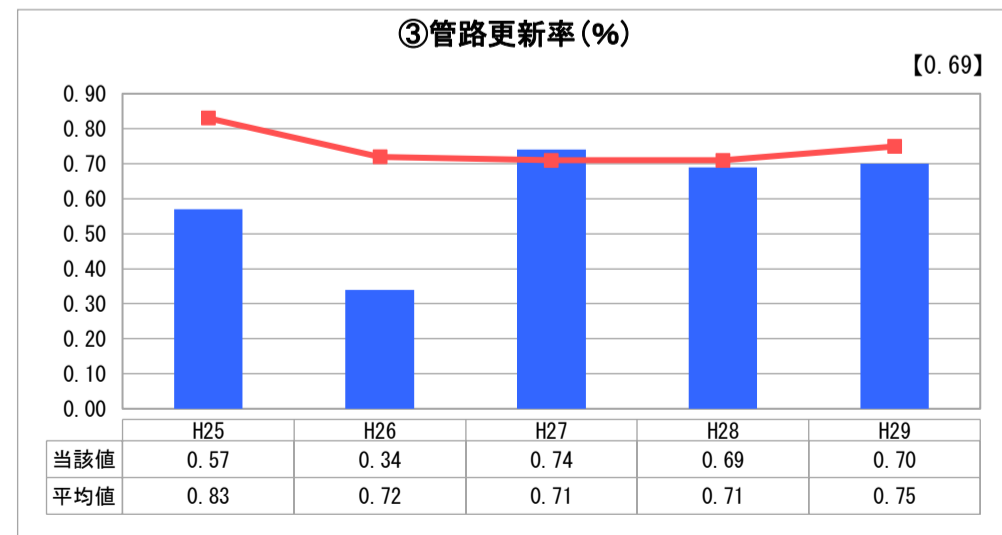
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

給水収益や長期前受金戻入が増加したものの、他会計負担金や給水加入金が前年度に比して減少して収益が伸びなかったのに加え、旧浄水場の解体工事や、漏水に係る修繕工事などに費用が掛かった。このため、「⑥給水原価」が高くなり、「①経常収支比率」とともに「⑤料金回収率」も前年度より落ちた。

経営については5年以上「①経常収支比率」が100%を超え、「②累積欠損金比率」が0%であり、「⑦施設利用率」も類似団体や全国平均よりも良い状態で推移していることから、健全性を確保し、効率的な経営が行われていると言える。

しかしながら、「③流動比率」は100%を上回り全国平均よりも高いものの年々減少傾向にあり、管路や機械設備の更新により現金は減っていき、「④企業債残高対給水収益比率」が上昇することが考えられる。また、漏水の減少に努めたことなどから「⑧有収率」は前年度より高くなったが、将来見込まれる人口減少や節水家電の普及等による節水意識により、給水収益の増加は見込めない。

これらのことから、更なる漏水の減少に努め有収率を向上させるとともに、今後は「⑦施設利用率」を100%に近づけるためのダウンサイジングや、料金の見直しを含む経営改善を検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

「②管路経年化率」及び「③管路更新率」を類似団体の平均値や伸びと比較すると、当市の更新が遅れているように見えるが、「①有形固定資産減価償却率」、「②管路経年化率」及び「③管路更新率」が前年度と同程度で推移していることから、当該年度に管路等を計画的に更新できたと言える。

全体総括

経営については健全性を保っているものの、施設の老朽化は進むので、更新するための現金がいずれ減少する。給水収益増加は見込めないため、適切な施設更新とそれに対する財源確保をとりまとめた経営戦略を策定し、健全な経営に努めていく必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。